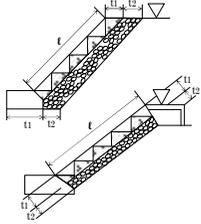


No.	工種		測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
32	場内整備工、 法留工及び 法面処理工	コンクリート ブロック積工	基準高 ▽	±50	施工延長 40mにつき 1 か所、 延長 40m以下のものは 1 施工箇所 につき 2 か所 厚さは上端部及び下端部の 2 か 所を測定		—
			法長 L < 3m	-50			—
			法長 L ≥ 3m	-100			—
			厚さ t1	-50			—
			厚さ t2	-50			—
			延長 L	-200			—
33	場内植栽工、 法留工及び 法面処理工	地被類植付工、 種子吹付工	切土法長 l < 5m	-200	施工延長 40mにつき 1 か所、 延長 40m以下のものは 1 施工箇所 につき 2 か所	—	
			切土法長 l ≥ 5m	法長の-4%		—	
			盛土法長 l < 5m	-100		—	
			切土法長 l ≥ 5m	法長の-2%		—	
			延長 L	-200	1 施工箇所ごと	—	
34	耐震補強工	あと施工せん断補強鉄筋工	あと施工せん断補強鉄筋工については、設計図書の定めによる。				

工種		試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要
高圧噴射攪拌工	施工	六価クロム溶出試験	「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験要領（案）」による。			
		改良体の強度試験	一軸圧縮試験 JIS A 1216	<ul style="list-style-type: none"> <li>各供試体の試験結果は改良地盤設計強度の85%以上</li> <li>1回の試験結果は改良地盤設計強度以上</li> </ul>	改良体 500 本未満は 3 本、500 本以上は 250 本増えるごとに 1 本追加する。試験は 1 本の試験体について、上、中、下それぞれ 1 回、計 3 回とする。ただし 1 本の改良体で改良強度を変えている場合は、設計強度ごとに 3 回とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 回の試験とは 3 個の供試体の試験値の平均値で表したものを示す。</li> <li>改良体の採取は原則ボーリングで実施する。</li> </ul>
コンクリート防食被覆		<p>試験項目、試験方法、規格値、試験基準等は、日本下水道事業団の「下水道コンクリート構造物の腐食抑制技術及び防食技術マニュアル」及び当局の「コンクリート改修技術マニュアル（処理施設・管路施設編）」の最新版による。</p> <p>なお、当該マニュアルの改定過渡期等、両者の内容に差異が生じ、適用の判断が困難である場合は、別途監督員と協議すること。</p> <p>また、新技術についても、当該マニュアルの考え方に準拠するものとし、当該マニュアルの適用が困難である場合は、別途監督員と協議すること。</p>				
既存コンクリート構造物補修工		<p>試験項目、試験方法、規格値、試験基準等は、日本下水道事業団の「下水道コンクリート構造物の腐食抑制技術及び防食技術マニュアル」及び当局の「コンクリート改修技術マニュアル（処理施設・管路施設編）」の最新版による。</p> <p>なお、当該マニュアルの改定過渡期等、両者の内容に差異が生じ、適用の判断が困難である場合は、監督員と協議すること。</p> <p>また、新技術についても、当該マニュアルの考え方に準拠するものとし、当該マニュアルの適用が困難である場合は、別途監督員と協議すること。</p>				
あと施工せん断補強鉄筋工		あと施工せん断補強鉄筋工については、設計図書の定めによる。				